工業っ子

No. 084
―発行日―
2013. 07. 19
―編集―
長崎工業高校新聞部
―発行―
長崎工業高校新聞部

僅差の戦いを制したのは…

ものづくりコンテスト県大会

自動車、電子回路が優勝、上位独占!!!

六月十五日、県北地区を中心に開催された高校生ものづくりコンテスト県大会。本校からは自動車整備・旋盤・電気工事・木材加工・化学分析・電子回路組立の六部門に出場、技を競いました。

▲寸分違わぬ完成を目指す

◀すみずみまで点検！

止まらぬ勢い

自動車整備　一、二、三位

自動車整備部門の会場は佐世保高等技術専門校。P3中村正敏君、M2糸瀬燿孝君と川﨑勇太君、永田一平君が出場。

静かな会場で車体を丁寧に検査する選手の姿は真剣そのもの。私の目にはその道のプロの様に見えました。結果、中村君、糸瀬君、川﨑君がそれぞれ最優秀賞、優秀賞、優良賞を受賞。試合後、入賞した選手にインタビューをすると「次は日本一を狙う」（中村君）「全力が出せなくて複雑。来年も頑張る」（糸瀬君）「初めての出場で緊張したが、無事入賞できてホッとした」（川﨑君）と各々の思いを話してくれました。

快進撃を続ける我が校の自動車整備部門。勢いはまだまだ止まりません。

▶美しい…見事な曲線美

涙、そして優勝

電子回路組立　一、二、三位

鹿町工業高校で行われた電子回路組み立て部門。J3中島みのりさんと大坪康裕君、竹野洋介君、D2福田直樹君が出場しました。選手の作業の音だけが響き、ピリッとした緊張感に包まれる会場。選手たちの表情からその集中が伝わってきます。

結果は中島さんが最優秀賞、竹野君が優秀賞、福田君が優良賞を受賞。競技後のインタビューでは「練習通り。最後まで出来てよかった」（中島さん）「緊張して手がブルブルした」（竹野君）「来年に向けメンタルを鍛える」（福田君）と話しました。

優勝した中島さんは九州大会出場が決定。次のステージへ向けて更なる練習を重ねています。

▲地道な作業を繰り返す…

弱気な発言するも…

電気工事　二位

会場は鹿町工業高校。出場したのはE3相川弘法君と福純弥君。試合の前、二人は「緊張で死にそう」（福君）「原口先生が怖い」（相川君）と不安そうな表情で今の気持ちを話しました。しかし競技が始まるとその顔は集中したものに。金鎚とドリルの音が響き渡る会場で、指導担当の原口先生は「力は十分あるので、落ち着いてやれば大丈夫」と力強いコメント。

結果は相川君が優秀賞。「賞に入るとは思っていなかったので驚き。時間ギリギリでの踏ん張りが功を奏した」とはにかみながら話してくれました。

▲魅せるぜ！
職人芸!!

◀より綺麗に、
より完璧に

トラブルを超えて

木材加工　二位

会場は佐世保工業高校。A3の北島亜希さんとP3の古川宇宙くんが出場。会場は静かで、選手一人ひとりの緊張が伝わります。指導者の西平先生は、「去年よりも丁寧に作っている。大事なのは気持ち」と語りました。結果、古川君がノミの持ち手部分が外れるハプニングを乗り越え優秀賞。古川君は競技後「お世話になった先生方や仲間に感謝したい」と話しました。応援の先生たちからは「今年が一番ハラハラした」「完成して良かった」と安堵の声。来年も、優勝を目指して頑張ってほしいです。

自らに打ち勝つ

化学分析　三位

大村工業高校で行われた化学分析部門。出場したのはC3の堀和貴君、C2石田彩恵さんと清水李帆奈さん。ビーカーに薬品を一滴ずつ入れていく細かい作業は強い精神力が必要。審査員の視線のプレッシャーも加わって、見ていた私達にも緊張が伝わってきました。

今回、見事優良賞に輝いたのは清水さん。お話を伺うと「嬉しい。指導担当の先生、応援してくれた皆に感謝している」とメダルを手に満足げに答えてくれました。また、堀君は後輩達へ「来年頑張れ」と背中を押す一言。来年の大会に期待です。

惜しくも入賞ならず

旋盤

会場は鹿町工業高校。P3大上龍馬君とM2中村元気君が出場。ミリ単位の誤差も許されない難しい競技ですが、集中力を切らすことなく黙々と取り組んでいました。競技中、宮崎先生は「私まで緊張している。力を発揮できれば良い結果が出せる」とコメント。

競技後、「調子は良かったが、ミスをしてしまった」と大上君。宮崎先生は「平常心で取り組めていた。」と話されました。

健闘するも入賞を逃した旋盤部門。大会の難しさを感じました。

今日の一枚

～精一杯～

▼今年も騒がしくなりそうです

セミが鳴き
西瓜並ぶは
夏の足音

梅雨明けと同時に日差しが強くなった気がします。容赦なく照りつける日差しに対抗する様に鳴く「セミ（抜け殻）」が今回の一枚。私たちより一足早く夏を満喫するセミたち。一週間しか命がもたない彼らにとっては、満喫というよりも時間との戦いでしょうか。限られた時間を思い切り生きる姿が勇ましく思えます。

さて、夏休み間近。今年こそ七月中に課題が終わりますように。（畠道）

青春日記

暑い。暑すぎる。

時は七月中旬。念願の夏休みを直前に控えたこの時期に天から与えられる試練。それがこの猛烈な暑さの正体なのか。聞こえ始めた蝉の声。蜃気楼が揺れる。そしてその中でくたばる私。容易に想像できます。道端に眼鏡が落ちていたら、きっとそれは溶けてなくなった私です。よかったら供養してください。

さて、夏といったら何でしょう。ラムネですね。断言します。しゅわしゅわとした口当たり、仄かに広がる絶妙な甘さもさることながら、容器の造形美はもはや芸術の域。まさに夏限定ロマンティック・ドリンク。飲むだけで爽やかな夏が広がってゆくようです。

しかし、私は生粋の田舎小僧。夏といったら海か？ビーチか？バーベキューか？否、虫地獄であります。山の中にひっそりと立つマイハウスには毎晩渦巻く羽蟻や小蝿が訪れ、大賑わい。虫との戦いが待つ私の夏はラムネのようには甘くはない。

私の今持てる対害虫用最強兵器、それは父がくれた「静電気の流れるテニスラケット（のようなもの）」。虫に当てると一瞬で行動不能にすることができます。こりゃすげぇ。これを使えば私も害虫キラーに…！と思った矢先に発覚した、ただ一つの、そして最も重要な問題。当たらない。私の全てを見透かしたようにひらひらと避ける虫達。空振っては汗をかく悪循環。あぁ、誰かオラに反射神経を分けてくれ…。そう思う夏の日です。（山田）

発信!!長崎

「世界新三大夜景」に選ばれた長崎市。先日の新聞では、来たる〈しおかぜ総文祭〉に向け、他県の来訪者にアピールするため「長崎市は七月の三十、三十一日、企業に夜間のカーテン開放を依頼して景観アップを図っている」とのニュースが載っていました。

全国から約二万人の高校生が参加する文化部のインターハイ、総文祭。日本全体からみると日本の西の端っこ、長崎にそれだけの人がやってきます。

長崎から全国に発信できることは何でしょうか。昭和二十年八月九日、原爆投下。長崎を最後の被爆地にしたい…という世界へ向けた平和への願い。鎖国時代、日本で唯一オランダや中国との貿易の窓口であった国際交流の歴史。長崎と言えば坂の町。坂で囲まれた街並みが魅せる、「世界新三大夜景」の風景。水産関係の研究や加工産業。ぜひ美味しいカマボコを味わって頂きたい。みかんも有数の産地。たくさんある離島などなど。皆さんはどんな長崎を発信したいですか。新聞部では大会のメインである「交流新聞作り」で長崎市内を中心とする六コースに分かれて取材し、新聞を作り、その作品は長崎新聞社に展示されます。他県の人の目を通してあなたの知らない新しい長崎の姿が見えてくるかもしれません。

全国の高校生の創意溢れる活動をここ長崎で見ることができます。近いところでは水辺の森、県立美術館やブリックホール、市公会堂、歴史文化博物館、長崎新聞社、時津のコスモス会館が会場。創意溢れる文化部の活動をぜひ観に行きましょう。「日本は広い」「全国大会のレベルは高い」ことを感じ、視野を広げるために。（下平）